
《言語研究センターへの提言》

▶ニューズレターについては、取り立てて意見はありませんが、昨年の運営委員会の席上でも申し上げた通り、原稿を書く人には偏りがあって、5～6年間何も書かない人が見受けられますので、少なくとも3年に1本くらいは原稿を書く義務を課すべきだと思います。そうすれば、現在の会員数をもってすれば記事の取材に困ることはなくな

るでしょう。

また、共同研究費をもらっておきながら、報告書を出していないグループがありますが、一部の人には厳しく要求しておきながら、他のグループはいい加減なまま放置している不公平さには合点がゆきません。

(匿名希望)

▶言語研究センターに対する素朴な疑問は、なぜ言語研究に携わっておられる諸氏がもっと積極的にセンターを研究機関として利用しないのか、そしてこれを発展させようとしないのかという点に尽きます。文学や歴史関係の者には幸い人文研究所と人文学会があります。もちろんそこには言語関係者も含まれます。しかし言語研究センターで主になるべきはやはり言語研究者だと思います。言語関係者だけでは運営もままならず、論文にしても十分な数が集まらないので文学、歴史その他にまで許容範囲を広げざるを得ない感が否めませ

ん。(授業等で全員がセンターを何らかの形で利用はしますがそれはあくまでセンター業務の一部であり、研究活動とは異質のものでしょう。LL業務を切り放すことさえ可能だと思います。)もし言語研究センターが言語研究者の盛んな研究活動とその結果とするこの論文で活況を呈していれば文学関係などの入る余地はないでしょう。言語研究センターの論文集は当然のこと言語研究者の論文で埋められるべきではないでしょうか。

(匿名希望)
